

「NEXTART (ネクスタート) ～芸術文化と出会いキャリアをひらく～」の特徴

- レクチャーや現場訪問、受講者によるアイデア発表を通じて多角的に現代アートの知見を深める
- 受講生一人ひとりのスキルや経験を活かした、アート領域との新たな接続の可能性を探る
- ビジネス領域とアート領域それぞれにおいて活躍する講師陣から実践的な学びを得る
- ディスカッションやグループワークの中で、講師、ファシリテーター、受講生同士が交流する

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

カリキュラム監修：特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト] 運営：株式会社日経BPコンサルティング

ファシリテーターからのコメント

特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

現代アートの仕事の面白さは、常に複数の答えや可能性を探りながら進んでいくことです。人や場所、状況によって求められるものが変わり、その都度新しい発見や試行錯誤が生まれる——その「妙」こそが、アートの仕事の醍醐味です。その中心にいるのはアーティストですが、その創造的な活動を社会につなぎ、支えるためには、多様な専門性や経験が欠かせません。みなさんが培ってきた企画力や広報力、マネジメント力、交渉力などは、アートの現場でも大きな力になります。この講座が、それぞれの経験やスキルを生かし、新たな協働や価値創造の可能性を見つける機会となれば幸いです。

寄本 健 (東急株式会社 文化・エンターテインメント事業部 アート&カルチャー事業担当課長)

アートの可能性を、日本の未来へ。

好きから始まる情熱を、仕事へ。

その秘めた想いを、事業へ。

アートの力で新しい価値を生み出す。

その挑戦を、ともに歩む仲間をお待ちしています。

公式サイト

芸術文化と社会をつなぐ人材養成プログラム「NEXTART (ネクスタート)」の開始及び令和8年度受講生募集に合わせて、公式ウェブサイトがオープンしました。事業概要や各レクチャーと講師陣の紹介、募集要項、応募フォーム（複数の設問及び応募動機の記述等あり）等を掲載しています。

NEXTART
芸術文化と社会をつなぐ人材養成プログラム

このプログラムについて プログラム/講師紹介 募集要項 よくある質問 アーカイブ動画

応募する

芸術文化と出会い キャリアをひらく

NEXTART

これまでのキャリアで身につけたスキルや経験を、
芸術文化領域で活かしてみませんか

NEXTART (ネクスタート) は、様々な分野で実績を積んできた社会人を対象とした
芸術文化領域における活躍の可能性を広げるためのプログラム (講座+ネットワーキング) です。

2026年度は現代アートにフォーカスした講座を通して、
受講生ひとりひとりが未来と向き合いながら、
次の一歩に向けた方向性を見出すことを目指します。



NEXTART 公式サイト

(<https://next.artscouncil-tokyo.jp/>)

講師・ファシリテータープロフィール (登壇順・敬称略)



Photo by Takehiro Goto

藪前 知子 やぶまえ ともこ

キュレーター、東京都現代美術館学芸員、武蔵野美術大学客員教授。東京都現代美術館ではこれまで、大竹伸朗、山口小夜子、石岡瑛子、クリスチャン・マークレー、岡崎乾二郎らの個展のほか、「おとなもこどもも考える ここはだれの場所？」(2015)、「日本現代美術私観 高橋龍太郎コレクション」(2024)など、現代美術からファッション、デザイン、音楽を横断する展覧会を企画。「札幌国際芸術祭2017」、「αMプロジェクト 東京計画2019」、「APK Public vol.2 未完の都市」などの外部キュレーションのほか、雑誌・ウェブ等に近現代美術、音楽、ファッション、映画等幅広い分野についての寄稿多数。



Photo by Sayaka Takizawa

ロジャー・マクドナルド

特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]／フェンバーガーハウス館長／多津衛民藝館館長。東京生まれ。国際政治学(学士)、神秘宗教学(修士)、博士課程で『アウトサイダー・アート』(1972)の執筆者ロジャー・カーディナルに師事し美術史を学ぶ。1998年よりインディペンデント・キュレーターとして活動。「横浜トリエンナーレ2001」アシスタント・キュレーター、「シンガポール・ビエンナーレ 2006」キュレーター等。2013年に長野県佐久市に移住後、実験的なハウスミュージアム「フェンバーガーハウス」をオープンし館長を務める。2018年から気候危機に関する研究を開始し、2019年、望月地域にて市民運動グループ「MOACA」設立。気候危機や「適応」に関するレクチャーとディスカッションを開催。信州アーツカウンシルアドバイザー。2024年より「平和と手仕事 多津衛民藝館」館長。主な著書に『DEEP LOOKING (ディープ・ルッキング) 想像力を蘇らせる深い観察のガイド』(2022、AIT Press)。



Photo by Reggie Shiobara

神谷 幸江 かみや ゆきえ

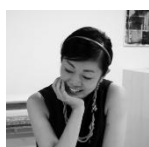
国立新美術館学芸課長。ジャパン・ソサエティー(ニューヨーク)ギャラリー・ディレクター、広島市現代美術館学芸担当課長、ニューミュージアム(ニューヨーク)アソシエイト・キュレーターを歴任。2025年より現職。第12回上海ビエンナーレ(2018-2019)共同キュレーターを務めた他、国内外で日本・アジアと他地域、異分野を横断する展覧会を手がける。現在National Museum of Women in the Arts(ワシントンD.C.)でのWomen to Watch 2027展コンサルティング・キュレーターも担当。

**寄本 健 よりもと けん**

東急株式会社 文化・エンターテインメント事業部 アート&カルチャー事業担当課長。1999年東京急行電鉄(株)(現:東急(株))入社。ホテル事業マーケティング、沿線エリア戦略策定、学童保育事業立ち上げ、東横線副都心線相互直通プロジェクトに携わったのち、2013年に(株)東急文化村に外向。2018年より渋谷開発事業部にて、エリアマネジメントやブランディング、地域連携など、渋谷再開発におけるソフト面を担当。2019年にエンターテインメント専門部署の立ち上げに参画し、2024年より現職。

**菊地 望 きくち のぞみ**

感性響奏プランナー。2025年12月まで株式会社野村総合研究所に30年勤務。うち約20年は人材育成領域を専任し、研修設計から人材開発制度の構築まで幅広く担当。組織の成長は「人」が起点という信念のもと、時代の潮流をとらえた新しい能力開発を探究。AIの台頭により求められる能力が変化中、これからの時代に必要な「感性」の開発に着目。人の感性を豊かにするための手段として、芸術に触れる機会をあらゆる側面から提供する企画・戦略の立案を得意とする。

**市川 靖子 いちかわ やすこ**

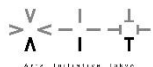
東京を拠点に、美術分野に特化したPR会社いろいろ代表。美術館、芸術祭、アートフェア、自治体文化事業などにおいて、広報戦略立案、メディアリレーション、企画運営支援を手がける。国内外のアートプロジェクトに幅広く携わり、展覧会や文化事業の価値を社会へ伝える広報を実践。アートと社会をつなぐコミュニケーションを専門とする。最近の仕事に国際芸術祭あいち、東京オペラシティアートギャラリー、KYOTOGRAPHIE、ART POWER KYOBASHI、「Bloomberg Connects(ブルームバーグ・コネクト)」アプリのPRなど。



Photo by Akira KITAJIMA

三木 あき子 みき あきこ

直島新美術館館長／ベネッセアートサイト直島インターナショナル・アーティスティック・ディレクター。パレ・ド・トーキョー(パリ)チーフ&シニア・キュレーター(2000-2014)、横浜トリエンナーレ(2011 芸術監督、2017共同監督)等を歴任。台北ビエンナーレ(1998)、バンコクアートビエンナーレ(2024)、国際美術展TOKYO ATLAS(2026)等の国際展や、パーピカンアートギャラリー(ロンドン)、台北市立美術館、韓国国立現代美術館、森美術館、横浜美術館、京都市京セラ美術館等各国主要美術館にて数々の企画を手掛ける。また、弘前れんが倉庫美術館等多くの美術館の立ち上げも担当。

**特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]**

現代アートと視覚文化を考えるための場作りを目的として、2001年に設立したNPO法人。個人や企業、財団あるいは行政と連携しながら、現代アートの複雑さや多様さ、驚きや楽しみを伝え、それらの背景にある文化について話し合う場を、さまざまなプログラムをとおして創り出している。